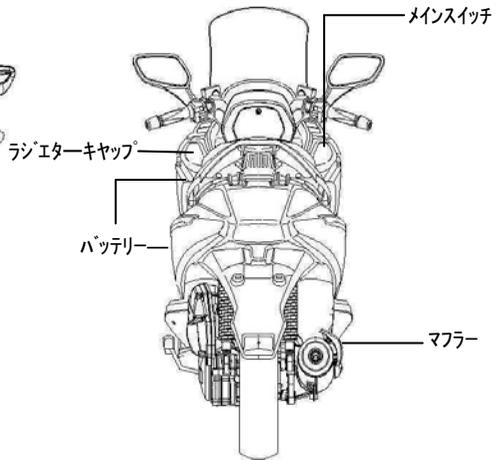
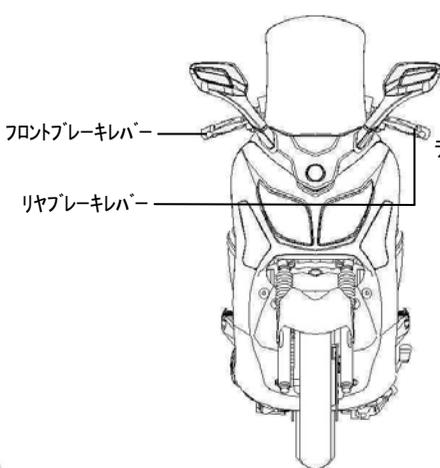
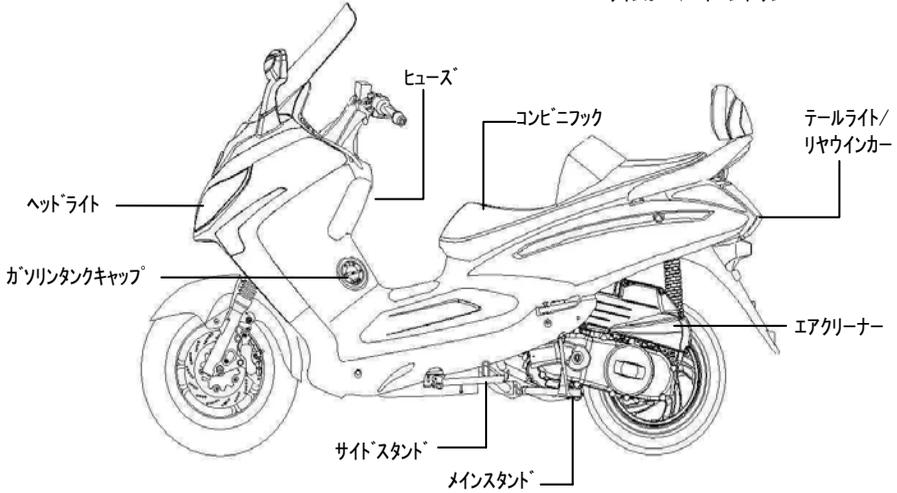
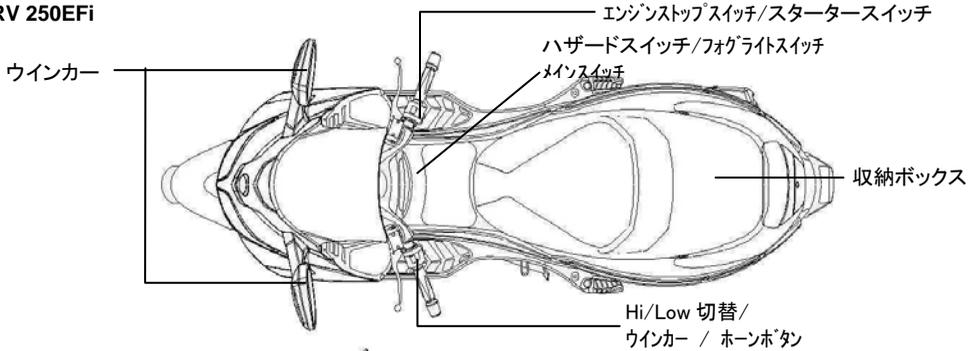


1. 内容	1
2. SYM車の保証	3
3. メンテナンスレコード	4
定期点検整備の記録	4
その他 臨時整備の実施記録	5
油脂液類・消耗品の交換記録	6
SYM からのおすすめ点検整備記録	9
4. コントロールロケーション	10
5. ご乗車の前に	11
純正スペアパーツの使用	11
6. 安全運転	12
7. ドライビング	13
8. 各種機能の使い方	15
メーター	15
イグニッションスイッチの操作	17
各種スイッチの使い方	18
エンジンコントロールスイッチ	20
コンビニフック	21
シートロック	21
ラゲッジボックス	21
タンデムステップ	21
フューエルキャップ	22
ブレーキ	23
9. エンジンの始動要領と注意事項	24
10. 正しい走り方	25
スロットルコントロール	25
車両の停止及び駐車	25
11. 乗車前の点検とメンテナンス	26
日常点検	26
エンジンオイルの点検と交換	26
ガソリンの点検	27
ギヤオイルの点検と交換	27
ブレーキの遊び点検	28
ディスクブレーキの点検	28
スロットルバルブの遊び調整	28

バッテリーの点検とメンテナンス .....	30
タイヤの点検 .....	31
フロントサスペンションの点検 .....	31
リヤサスペンションの調整 .....	32
ヒューズの点検と交換 .....	32
方向指示器とホーンの点検 .....	32
ヘッドライト及びびりヤライトの点検 .....	33
ブレーキライトの点検 .....	33
ガソリン漏れの点検 .....	33
車体各部の給油 .....	33
スパークプラグの点検 .....	33
冷却システムの点検 .....	34
クーラントの補充 .....	34
寒冷地での不凍液濃度参照表 .....	35
クランクケースブローバイシステム .....	35
エアクリーナーの点検 .....	36
クランクケースエアクリーナーの点検 .....	36
12. こんなときは .....	37
エンジンが始動しないとき .....	37
13. ガソリンについて .....	38
14. トランスミッションオイル .....	38
15. 運転時の注意 .....	38
16. 定期メンテナンススケジュール .....	39
17. 諸元表 .....	40

**RV 250EFi**



4. コントロールロケーション

- このマニュアルではスクーターの正しい使い方とともに、安全走行、簡単な点検方法などをご紹介します。より快適で、安全な走行のためにも、このマニュアルを必ずお読み下さい。

お買い上げのSYM 販売店にて車両の説明をお聞きいただき、次の箇所をお読み下さい：

- 正しいスクーターの取り扱い方
  - 納車前の点検とメンテナンス
- オーナーズマニュアルやカタログにある写真やイラスト、車両の諸元や構造が修正されていたり、異なっている場合は改良されて良くなったものご判断下さい。

### ご愛用を感謝いたします

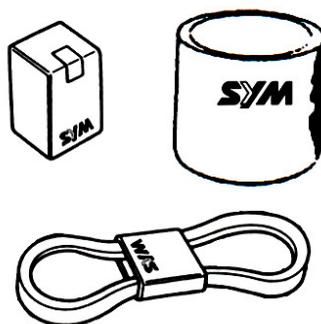
お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず実施して下さい。新車の場合、最初の 300km 走行時にお買い上げの販売店に車両をお持ちのうえ、初回点検を実施して下さい。その後は走行 1000km 毎に定期点検を販売店で実施するようにして下さい。

### 環境汚染防止の為に以下のことにご注意ください

- ガソリン：レギュラーガソリンを使用して下さい。
  - エンジンオイル：SAE 10W-40 API SH/CD または同等以上のエンジンオイルを使用して下さい。
  - 定期メンテナンススケジュールにしたがって点検とメンテナンスを実施して下さい。
  - 環境汚染防止のためにも、排気系統の改造は絶対にしないで下さい。
  - 注意事項：点火システム、充電システム、燃料システムは排気ガス触媒装置の正常な作動に関係していません。
  - エンジンがうまく作動しない時はすぐにSYM 特約店に持ち込み、点検修理の依頼をして下さい。
- 必ずレギュラーガソリンをご使用下さい。

### 純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に、各パーツの品質、素材、精密性はもとのデザインが要求するものに合わなければなりません。“SYM 純正部品”は現二輪車に使用されたのと同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通して生産される“SYM 純正部品”をSYM 特約店からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合は、メーカー保証の対象にはなりません。またトラブルや性能低下の原因にもなります。必ず純正部品を使用するようにして下さい。



## 安全運転

走行時にはリラックスして、安全運転に適した服装である事がとても重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。

一般的に多くの人は、新車購入時はとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを引き起こしやすくなります。

### 忘れないで下さい:

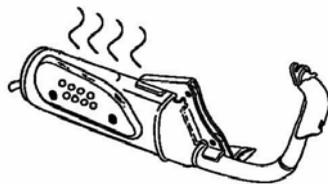
必ずヘルメットを着用して下さい。

運転中は携帯電話を使用しないで下さい。

制限速度を守って下さい。

定期点検とメンテナンスを実施して下さい。

### やけどに注意！！



### ⚠ 警告！！

- 二人乗りをする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いてください。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンス時はやけどをしないように注意して下さい。また、駐車する時はほかの人がマフラーでやけどしないように駐車場所にも注意して下さい。

## ドライビング

### 運転姿勢:

- 走行にあたっては、体の使用箇所、腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要なときに素早く反応できるように常に心がけて乗りましょう。また運転者の姿勢は安全走行に大きく関係します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られるようなこととなります。不安定なハンドルでの二輪車走行は危険です。

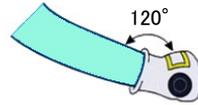
正しい姿勢



悪い姿勢



グリップ内側より指一本分開ける



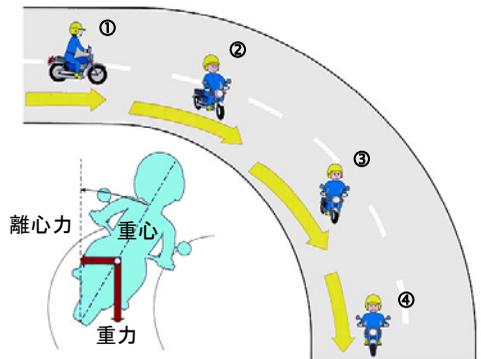
腕の角度

### カーブ走行時のポイント:

- カーブを曲がる時には、運転者と車体が同一方向に傾けるとターンしやすくなります。反対に運転者が体と車体を傾けないと不安定になります。

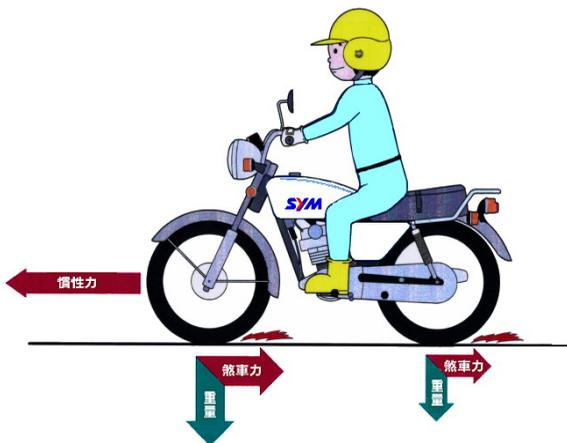
#### カーブ走行要領:

- ①カーブ手前でしっかり減速すること。
- ②カーブ走行中は速度を一定に保つこと。
- ③カーブを出る時は適度に加速し、安定走行を保ちましょう。
- ④カーブを出た後は、前後を確認してから加速して走行しましょう。



## ブレーキの要領：

- ブレーキをかける時は、前後輪ブレーキを同時に掛けましょう。二輪車の性格上、片方だけ掛けると、不安定になり転倒しやすくなります。車体を真直ぐに保ち、急ブレーキは避けて下さい。タイヤがロックされます。



## 悪路走行の注意点：

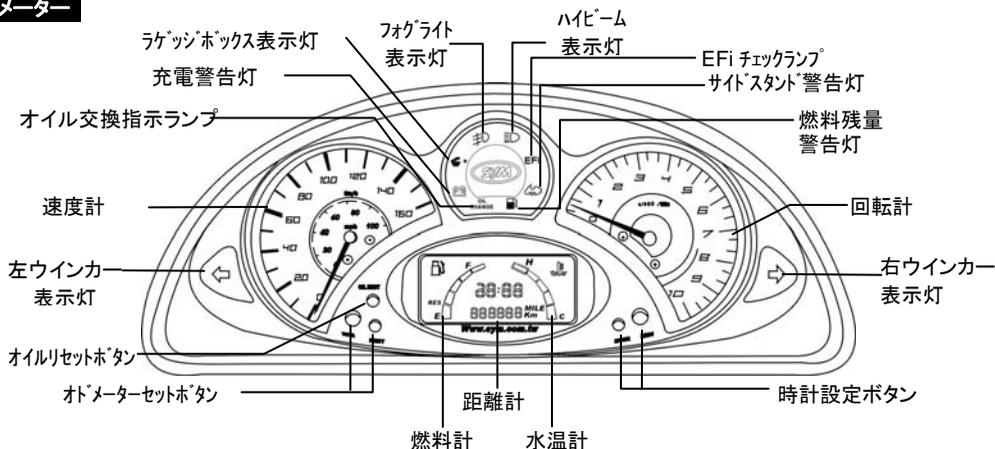
- でこぼこ道、未舗装道路、表面変化の激しい山道等では不安定な走行となりがちです。スムーズに走行できるように予め道路状況を把握してスピードを落とし、姿勢の安定を保ち、肩の力を抜いてハンドル操作をしましょう。

### 注意！！

- 布切れ等燃え易い物をボディサイドカバーとエンジンの間に置いたりしないで下さい。
- 指定場所以外に荷物を載せないで下さい。車両を傷めます。
- ハンドル近くに荷物を積み過ぎないようにして下さい。ハンドル操作の妨げになります。
- 荷物がある時と無い時ではハンドルに掛かる感覚が異なります。荷物の積み過ぎはハンドルをふらつかせ安定走行に影響します。特に過剰な荷物は載せないで下さい。
- 車両改造は構造やパフォーマンスに影響があります。結果的に車両寿命を短くする事になります。また、改造自体違法行為です。車両改造をしないように注意しましょう。

(以下の説明は SYM RV250i シリーズの基本操作です。各モデル仕様により異なる場合がございます)

## メーター



### ⚠️ ご注意:

- エンジン始動中にバッテリー端子を外すと、電子部品にダメージを与える恐れがありますのでご注意ください。
- プラスチック部品(メーターレンズ、ヘッドライトレンズ、ウインカーレンズなど)をガソリンなどの有機溶剤で拭かないで下さい。変色や変形を起こす恐れがあります。

### ● メーターボタン説明

1. **O/R** : オイル交換後に押ししてリセットをします。
2. **T/T** : 総走行距離と区間走行距離の切り替えをします。
3. **T/R** : 区間走行距離のリセットをします。
4. **HOUR** : 時間設定ボタン
5. **MIN** : 分設定ボタン

- **ハイビーム表示灯(青)** : ヘッドライトをハイビームに切り替えた時に点灯します。
- **フォグライト表示灯(緑)** : フォグライトを点灯させた時に点灯します。
- **ラゲッジボックス表示灯** : ラゲッジボックスを開けると表示灯が点灯します。
- **方向指示器表示灯(緑)** : ウインカーを操作した時に右、または左の表示方向を点滅して表示します。

### ● 燃料計 :

メインスイッチが "OFF"位置にある時には表示をしません。

メインスイッチを "ON"位置にすると現在のタンク内の燃料残量を表示します。指針が "E"位置に近づくと燃料残量警告灯が点灯します。燃料残量警告灯が点灯したらすぐに燃料を補給して下さい。

### ● サイドスタンド警告灯：

サイドスタンドが出たままの時に警告灯を点灯させて、エンジンが停止します。サイドスタンドを収納するとエンジンは始動する事ができます。



#### ご注意：

安定した状態である事を確認してからサイドスタンドを戻して下さい。

### ● 距離計：

この距離計はスクーターの走行距離を表示します。

**総走行距離計**：このスクーターの総走行距離を表示します。5桁の数字と小数点で全部で6桁表示です。  
(10万キロを超えるとゼロに戻ります)

**区間距離計**：運転者の任意によって距離を計算します。3桁の数字と小数点で全部で4桁表示です。  
(1000キロを超えるとゼロに戻ります)

### ● 水温計

エンジン冷却水の温度を表示しています。

メインスイッチを“ON”にすると現在の水温を液晶で表示します。走行中液晶表示は(H)より下が正常です。オーバーヒートした場合は液晶表示が点滅します。このような場合は冷却水の量やクーリングファンの回転などを点検して下さい。



#### ご注意：

長時間にわたって高温下でエンジンを回し続けると水温計は(H)を指示します。この場合、ただちにエンジンを停止してエンジンを冷やして下さい。オーバーヒートさせた場合、エンジンを傷める恐れがございます。

### ● 時計の設定

24時間表示で設定ができます。

メインスイッチを“ON”位置にすると24時間表示で時刻が表示されます。

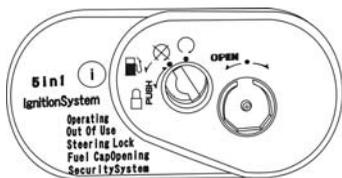
時刻調整は HOUR と MIN ボタンを同時に押すと時刻設定モードになり、時刻が点滅表示になります。

HOUR ボタンを一度押すと、1時間増えます。2秒以上押し続けるとスピード調整ができます。(分も同様に MIN ボタンを押して調整します)

時刻設定モードで HOUR ボタンを押しても2秒間は点滅しません。(MIN ボタンも同様です)

時刻設定が完了しましたら、何も押さずにいれば3秒後に自動的に時刻設定モードは終了します。

## イグニッションスイッチの操作



イグニッションスイッチ



イグニッションスイッチキー

### "スタート" 位置

- この位置でエンジンは始動できます。
- キーは抜き取る事はできません。

### "ストップ" 位置

- エンジンをかけない時、止める時に使います。
- キーは抜き取る事ができます。

### "オープン" 位置 (タンクキャップオープン) :

- 開ける時：キーを差し込んで左に回すとタンクキャップが開きます。
- 閉める時：タンクキャップを押して"カチツ"とロックして閉めて下さい。

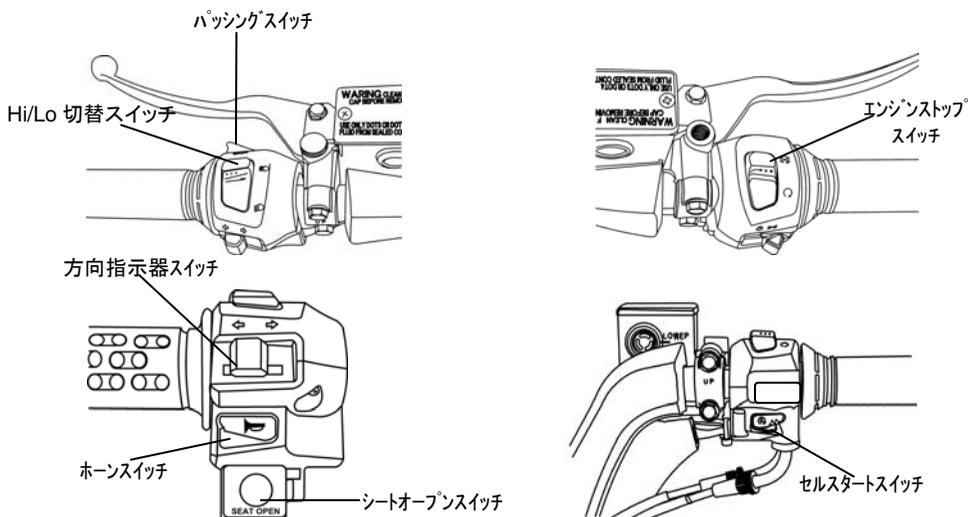
### "ハンドルロック" 位置

- ハンドルをいっぱいまで回り、キーを押して左に回して"ロック"位置までキーを回すとロックされます。
- この位置ではハンドルが固定されます。
- キーは必ず抜いて下さい。
- ハンドルロックを解除する時は"ロック"から"OFF"に回して下さい。

### **ご注意:**

- 車輛が走行している時はイグニッションスイッチを決して操作しないで下さい。イグニッションスイッチを"OFF"や"LOCK"位置にする事は電気システムを閉ざし、事故につながる恐れがあります。車輛が完全に停止したのちにイグニッションスイッチを"OFF"するようにして下さい。
- 車輛から離れる時はハンドルロックをして、キーは必ず取外すようにして下さい。
- エンジン停止状態でイグニッションスイッチを長い間"ON"位置にしておきますと、バッテリー電圧が低下します。このような状態になりますとエンジンの始動性に影響を与える恐れがありますので、ご注意下さい。

## スイッチの使い方



### ● エンジンストップスイッチ

緊急時にエンジンを停止させたい時にこの位置にするとエンジンは止まります。

通常はこの位置でご使用下さい。この位置でないとエンジンは始動できません。

### ● シートオープンスイッチ

メインスイッチが“ON”位置でこのスイッチを押すとシートのロックが解除されます。開錠後はスイッチから手を離して下さい。



#### ご注意:

鍵の閉じ込みを防ぐために、シートをロックする前にキーを手にとって置き忘れが無い事を確認して下さい。

## ●セルスタートスイッチ

-  セルモーターでエンジンを始動する時にこのスイッチを使用します。メインスイッチを“ON”位置にして、前輪又は後輪ブレーキをかけた状態でスイッチを押して始動します。

### ご注意:

- 始動後はすぐにスイッチから手を離して下さい。セルモーターを回し続けると故障の原因になります。
- 前輪が後輪のブレーキをかけていないとエンジンが始動しない安全機構になっています。
- エンジンを始動する時は方向指示器などの電気スイッチは“OFF”にしてから行って下さい。

## ●Hi/Lo 切替スイッチ

このスイッチはライトの向きを切替えます。Hi/Lo を切り替える時にはこのスイッチを押して下さい。

-  Hiビーム

-  Loビーム (市街地、すれ違い時はLoビームをご使用下さい)

## ●パッシングスイッチ

- PASS** メインスイッチが“ON”位置の時にこのボタンを押すと作動します。押している間、ヘッドライトはハイビームになり、他の車両などに合図を送る事ができます。(作動中はメーター内のハイビーム表示灯が点灯します。)スイッチを離すとロービームに戻ります。

## ●ホーンスイッチ

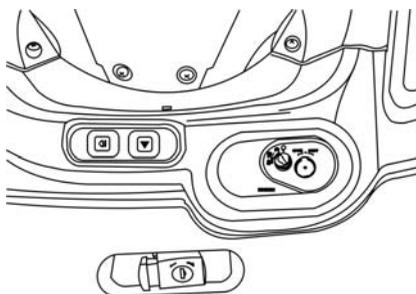
-  メインスイッチが“ON”位置にある時、このスイッチを押すとホーンが鳴ります。

### ご注意:

むやみにホーンを鳴らさないで下さい。

## ハザードスイッチ

-  メインスイッチが“ON”位置である時にこのスイッチを押すと4個のウインカーを同時に点滅させる事ができます。点滅中にメインスイッチを切っても点滅が続けます。“ON”位置でないと点滅を止める事はできません。交通が頻繁な場所での駐車や車両故障の場合に使用して下さい。



## フォグライトスイッチ



これはフォグライトのスイッチです。

### • 方向指示器スイッチ

方向指示器は右左折時や進路変更をする時に使用します。

メインスイッチを“ON”位置にして、スイッチを右、または左にスライドさせると方向指示器が点滅します。

解除する時はスイッチを押すと点滅が消灯します。



右方向のランプを点滅させ、右に曲がることを表示します。



左方向のランプを点滅させ、左に曲がることを表示します。

### • アクセサリーソケット

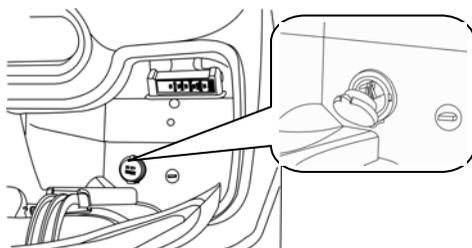
ソケットの位置はインナーボックスの右側です。簡易ライト、ラジオ、PDA、携帯電話などの小電力電源にお使い下さい。

#### ⚠️ お願い:

- シガライターのご使用はソケットを傷めますので絶対に使用されないで下さい。
- 雨の日にはご使用されないようにお願いします。
- ソケットをご使用になる場合は水や液体をかけないようにして下さい。

ソケットを使用される時はエンジンを始動した状態で使用して、ご使用時はキャップを開いて使ってください。

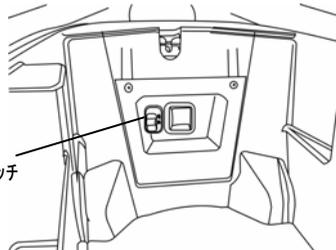
ソケットの定格は DC 12V, Max 60W (5A) で 4 時間以内のご使用をお守り下さい。



## エンジンコントロールスイッチ

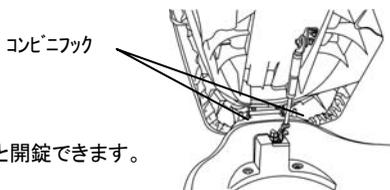
- このスイッチはラゲッジボックスの中にあります。
- スイッチが“ON” or “

エンジンコントロールスイッチ



### コンビニフック

- 買い物袋を掛けるフックです。



### シートロック

#### ● 開錠方法:キーを使用

左ボディカバーにあるシート解除キー穴にキーを差込、回すと開錠できます。

#### ● 開錠方法:スイッチを使用

メインスイッチを“ON”位置にしてシートオープンスイッチを押すと開錠できます。

#### ● 施錠:

シートを押し下げて確実にロックして下さい。

シートロックをした後は、シートを軽く持ち上げてみてしっかりシートロックがされているかを確認して下さい。

### ⚠️ ご注意:

- キーをトランクボックス内に置かないようにして下さい。シートが勝手に閉まってシートロックされてしまうとキーが取れなくなります。
- シートロックした後はキーを抜き取ることを忘れないで下さい。

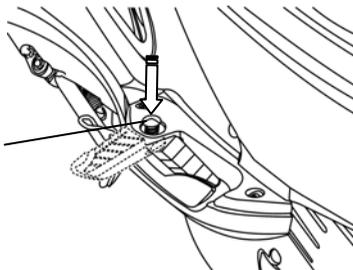
### ラゲッジボックス

- シート下にトランクボックスがあります。
- 最大積載重量は 10kg までです。
- 貴重品は入れないで下さい。
- シートをロックした後は、ロックが確実にされているか必ず確認して下さい。
- 水濡れを避けるために洗車をする前には荷物を取り出してから行って下さい。
- エンジンの熱で温度が上がりますので、熱に弱い物はこの中に入れしないで下さい。

### タンデムステップ

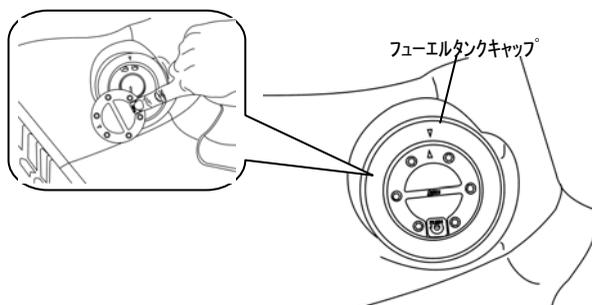
- ステップオープンボタンを押すとタンデムステップが自動的に出てきます。

ステップオープンボタン



## ガソリンタンクキャップ

1. メインスイッチにキーを挿入し、左に回してください。  
ロックが解除されタンクキャップが開きます。
2. 給油時は上限を超えて給油しないで下さい。
3. タンクキャップを右に回しながら”カチッ”と音がしてキャップがロックされるまで押し付けて下さい

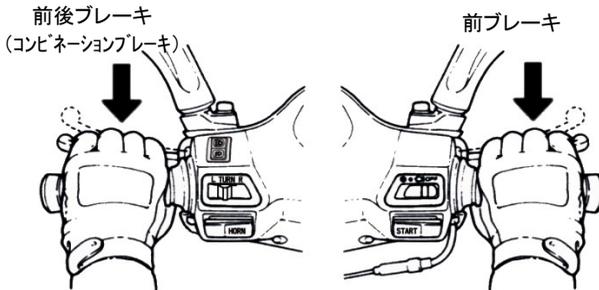


### ご注意:

- メインスタンドで駐車して車輛が安定している事を確認し、給油時はエンジンを必ず停止して下さい。燃料給油時は火気厳禁です。
- 給油時は上限を超えて給油しないで下さい。また勢いよく入れると吹き返しを起こし、こぼれたガソリンでボディの塗装や樹脂部品にダメージを与えたり、火災を起こす恐れがあります。
- 給油後はキャップが確実に閉まっているか確認して下さい

## ブレーキ

- 不必要な急ブレーキは避けて下さい。
- ブレーキをかける時は前輪・後輪を同時に使い、バランスよくブレーキを使って下さい。
- 長時間連続してブレーキをかける事は避けて下さい。ブレーキが加熱し、制動効果が低下します。
- 雨の日や滑りやすい道路での走行時は、スピードを十分に落としてから早めにブレーキをかけて下さい。また、横滑りや転倒しないように、急ブレーキは絶対にかけないで下さい。
- フロントブレーキだけ、リアブレーキだけかける事は二輪車の性格上、片側に引っ張られ転倒しやすくなります。片側だけのブレーキ使用はお止め下さい
- 左右のブレーキをバランスよくご使用していないとフロントブレーキパッドがバランスよく摩耗していきません



### 〈エンジンブレーキ〉

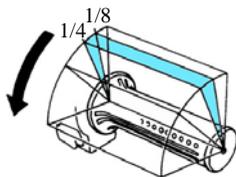
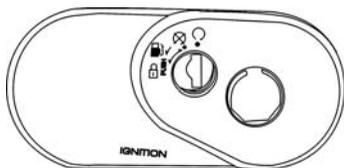
スロットルグリップを元の位置に戻して、エンジンブレーキを効かせて下さい。  
長距離走行時や、急な坂などではエンジンブレーキとハンドブレーキを併用して下さい

**⚠️ ご注意:**

- エンジン始動前に必ずエンジンオイルと燃料が充分にあるか、チェックして下さい。
- メインスタンドを使用し、車両が安定した状態でエンジンを始動して下さい。車両が突然動き出すこともございますので、リヤブレーキもかける事を忘れないで下さい。

メインスイッチを“ON”位置まで回して下さい。

1. リヤブレーキをかけて下さい。
2. スロットルを回さずにブレーキをかけた状態でセルスイッチを押して下さい。
3. エンジンが冷えている場合はしばらく暖機運転をして下さい。



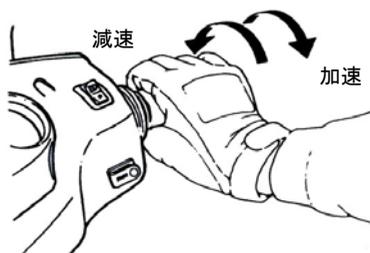
**[ご注意下さい! 動き出すまでリヤブレーキをかけたままにして下さい]**

**⚠️ ご注意:**

- スターターモーターを 3~5 秒回してもエンジンが始動しない場合、スロットルグリップを 1/8~1/4 ほど回してスタータースイッチを押して下さい。
- スターターモーターの破損を避けるために、15 秒以上連続してスタータースイッチを押し続けしないで下さい。
- スターターモーターを 15 秒回してもエンジンが始動しない場合は、10 秒経ってから再度エンジンを始動して下さい。
- 長い間エンジンをかけていなかった車両や、ガソリンが空のまま給油したばかりの車両はさらに始動しにくいです。スターターを何回も回す必要がありますが、スロットルは回さずにエンジンを始動して下さい。
- エンジンが冷えている時はエンジンが温まるまで数分かかります。
- 排気ガスには有害物質 (CO) が含まれています。よく換気のきいた所でエンジンを始動させて下さい。

- スタート前に方向指示器で合図を出し、後方の安全をよく確認してからスタートしましょう。

### スロットルバルブコントロール



**加速** : 速度が速くなります。ゆっくり回しましょう。登り坂ではさらに回して力をつけましょう。

**減速** : 速度を下げます。

### 停車する時

- 止まる地点が近づいたら:

1. 早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車輦に注意して徐々に左に寄りましょう。
2. スロットルを元の位置に戻して早めにブレーキをかけて下さい。(後方の車輦に注意を促すためにもブレーキランプを点灯させて下さい)

- 車両が止まったら:

方向指示器を元の位置に戻して、メインスイッチを“OFF”位置まで回してエンジンを止めて下さい。

1. エンジンが完全に止まってから車輦左側より降りて下さい。交通の妨げにならない所で水平な場所を選び、メインスタンドで駐車して下さい。
2. 左手でハンドルを持ち、右手でグリップを掴んで下さい。右足でメインスタンド左端部を踏み、車輦を後方に引き上げるような感じでメインスタンドをかけて下さい。
3. メインスタンドがしっかり接地しているか確認して下さい。

**忘れないで下さい:** 車両盗難防止のため、車両停車後はハンドルロックをしてキーを必ず抜いて下さい。



#### ご注意:

- 交通の妨げにならない、安全な場所に駐車するようにして下さい。
- サイドスタンドの使用は平坦では無い場所や一時的な停車時だけの使用にし、安定性向上のためにハンドルを左にいっぱいについた状態で使用して下さい。
- サイドスタンドでの駐車後はエンジンを始動する前にサイドスタンドを上げて下さい。エンジンが始動できません。

## 日常の点検

チェック項目		チェックポイント
エンジンオイル		エンジンオイル量は充分ですか?
ガソリン		量は充分ありますか?(無鉛レギュラーガソリンに限る)
ブレーキ	フロント	ブレーキング状態は? (ブレーキレバーの遊び: 10~20mm)
	リヤ	ブレーキング状態は? (ブレーキレバーの遊び: 10~20mm)
タイヤ	フロント	空気圧は正常ですか? (標準: 1.5kg/cm <sup>2</sup> )
	リヤ	空気圧は正常ですか? (標準: 2.25 kg/cm <sup>2</sup> for 1人乗車時, 2.5 kg/cm <sup>2</sup> 2人乗車時)
ステアリングハンドル		ハンドルが異常に振動する。あるいは動かすのが重くないですか?
スピードメーター、ライト、バックミラー		正しく作動しますか? ライトは点灯しますか? 後方ははっきり確認できますか?
車体各部の締付状態		ボルト、ナットに緩みはありませんか?
異常のあった箇所		以前のトラブルは直っていますか?

### ⚠️ ご注意:

- 日常の点検で何か問題が見つかった場合はすぐに修理をして下さい。必要な場合はお買い求めの SYM 特約店か又はお近くの SYM 特約店に車輛をお持ちいただき、修理を依頼して下さい。

## エンジンオイルの点検と交換

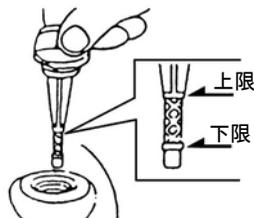
### 点検:

1. メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車輛を置いて下さい。エンジンを止めてから 3~5 分後にレベルゲージを抜いて、オイルを拭取った後に再度入れて計測して下さい。(回転はさせない)
2. レベルゲージを抜き取り、オイルレベルが上限と下限の間にあるかどうか確認して下さい。

オイルレベルが下限より下の場合は上限まで補充して下さい (シリンダー、クランクケース等のオイル漏れを確認して下さい)

### オイル交換:

- 最初の 300km 走行時にエンジンオイルは交換して下さい。以降 3000km 毎にオイル交換をして下さい。
- エンジンパフォーマンスを最大限に維持するためにも、エンジンオイル量は 500km 毎にチェックして、エンジンオイル量が不足している時は上限までオイルを補充して下さい。
- ※エンジンオイル : API SH, SAE 10W-40 以上の物をご使用下さい。低グレード、低品質オイルをご使用の場合はメーカー保証の対象にはなりませんので、ご注意下さい。
- ※また、高速道路で使われたり過酷な条件でのご使用の際は 1000km 毎にエンジンオイルを交換して下さい。
- オイル容量 :  
RV250i : 1.4 ℓ (交換時容量 1.2ℓ),  
オイルフィルター交換時: 1.2ℓ





### 【オイルフィルター清掃】

オイルフィルターナットキャップを取外して、オイルフィルターを取り出します。ガソリン又はエアージェットを使ってきれいに清掃してから取付して下さい。

### ⚠ 警告!!:

- 車輦が平坦でない所に止められた時や、エンジンを止めてすぐにオイル量を点検しても、正しいオイルレベルは確認できません。
- エンジンを止めてすぐはエンジンもマフラーも熱くなっています。エンジンオイルの点検や交換時はヤケドをしないように特に注意して下さい。

### ガソリンの点検

- メインスイッチを"ON"位置にして、燃料計によりガソリンが充分にあるかどうかチェックして下さい。
- この車輦は無鉛レギュラー(オクタン価 90 以上)を使用する前提で製造されています。
- 給油の際はメインスタンドで安定した場所に車輦を止め、エンジンを止めて火気の無い状態で給油して下さい。
- 給油時は、上限を超えて給油しないで下さい。
- ガソリン給油口のフタがしっかり閉まっているか確認して下さい。
- ガソリンにエタノールが 10%以上含有されているものは使う事は出来ません。

### トランスミッションオイルの点検と交換

#### 点検:

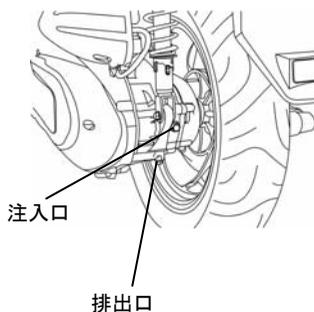
- 水平で安定した場所にメインスタンドを使用して車輦を止めます。エンジンを止めてから 3~5 分待って下さい。トランスミッションオイルインフュージョンボルトを外し、ドレンボルトの下に計量グラスを置いてからドレンボルトを外して下さい。出てきたオイル量を計量してオイル量の点検をして下さい。(全容量: 180 cc. / 交換時容量: 170 cc.)

#### オイル交換:

- エンジンを止め、メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車輦を止めして下さい。インフュージョンボルトとドレンボルトを外してオイルを抜取って下さい。
- ドレンボルトを戻し、しっかりと締めて下さい。新しいミッションオイル(170 cc.)を入れて下さい。インフュージョンボルトを戻し、しっかりと締めて下さい。(ボルトが確実に締まっているか、オイル漏れが無いかを確認して下さい)

#### ※推奨オイル:

SYM 純正 HYPOID GEAR OIL(SAE 85W-140).  
外気温度が 0°Cになる地域では SAE85-90 をお使い下さい。



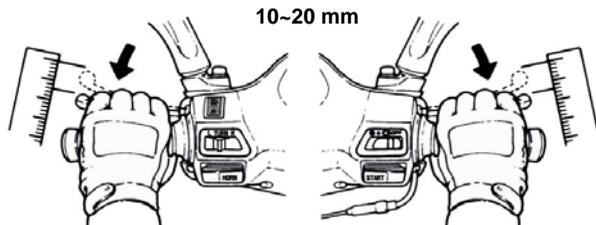
注入口

排出口

### ブレーキの遊び点検

点検: (ブレーキレバーの遊び点検はエンジンを止めてから行って下さい)

- 前後輪のブレーキレバーの遊び
- 前後輪のブレーキを点検する時は、遊び(ブレーキレバーを握ってからブレーキが効き始めるまでのストローク)は10~20mmです。力いっぱいブレーキレバーを握った時にやわらかく、ふわふわする感じの場合は異常です。



### ディスクブレーキの点検

(漏れ、損傷、緩みの点検)

- 目視にてブレーキオイルの漏れ、損傷を確認して下さい。レンチ等の工具によりブレーキラインの接続部に緩みが無いかを確認して下さい。ハンドルの振動が無いか、ブレーキラインの損傷を起こしそうな部分をチェックして下さい。万一異常があれば車輦をSYM 特約店にお持込になり、修理を依頼して下さい

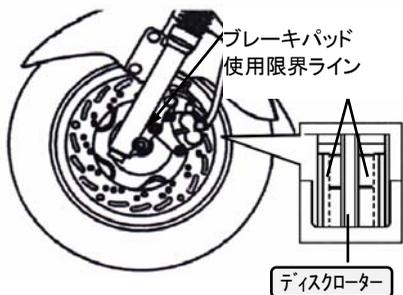


### ⚠️ ご注意:

- お客様の車輦が最適の状態、安全に走行できるかを確認める為に、安全な乾燥路面でゆっくりと車輦を走らせて前後輪ブレーキを操作してみて、不具合が無いか確認して下さい。

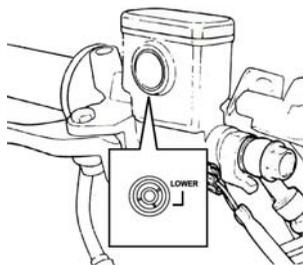
### (ブレーキパッドの点検)

- ブレーキキャリパーのすきまからブレーキパッドを点検して下さい。ブレーキパッドの使用限界部分がディスクローターに当たっている場合はブレーキパッドを交換して下さい。



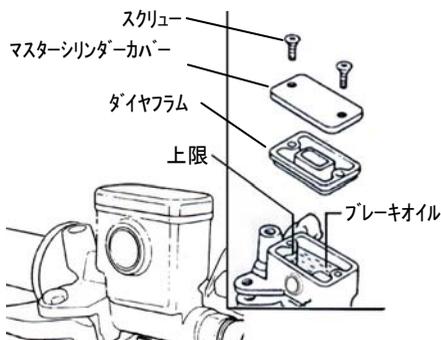
### (ブレーキリザーバーの油量点検)

- 車両を安定した場所に止めてオイルレベルが“LOWER”を下回っていないか点検して下さい。使用オイル: BRAKE OIL (DOT 3).



### (ブレーキオイルの補充)

1. スクリューを緩め、マスターシリンダーカバーを外して下さい。
2. リザーバー周りの異物や汚れを拭取して下さい。リザーバーの中に異物が入らないように慎重に行ってください。
3. ダイヤフラムを外して下さい。
4. ブレーキオイルを上限まで補充して下さい。
5. ダイヤフラムを取付けて、マスターシリンダーカバーを付けて下さい。(ダイヤフラムの向きに注意して下さい)
6. リザーバー内に異物が入らないように注意しながら、マスターシリンダーをしっかり締めて下さい。

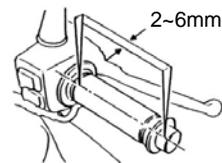


### ⚠️ ご注意:

- 異なるブレーキオイルを混ぜて使用しないで下さい。変質したり、ブレーキ装置の故障原因になる事があります。
- ブレーキオイルを補充する時は上限を超えて補充しないで下さい。車輛塗装を傷めるので塗装部分やプラスチック部にオイルが付着しないようにして下さい。

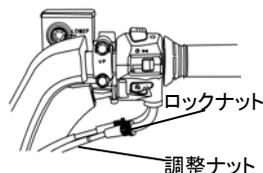
### スロットルバルブクリアランスの調整

- 2~6mmの遊びでクリアランスを調整して下さい。
- ロックナットを緩めて、調整ナットを回して調整して下さい。調整後はロックナットを確実に締めて下さい。



### 点検項目:

1. スロットルが閉じた状態から開いた状態までスムーズに動かかケーブルをよく確認して下さい。
2. スロットルケーブルが邪魔していないか、ハンドルを左右に動かして確認して下さい。
3. スロットルケーブルが干渉したりしていないか、よく確認して下さい。



## バッテリーの点検とメンテナンス

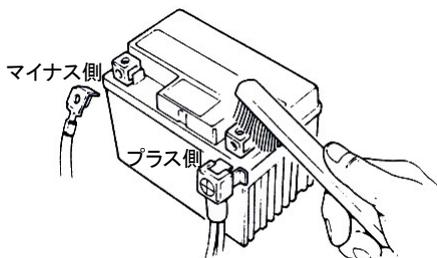
- この車輻には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しています。万一異常があった場合はSYM特約店にご相談下さい。

### 〈バッテリーターミナル清掃〉

バッテリーを取外し、ターミナルの汚れ、腐食を清掃して下さい。

バッテリー取外し手順:

メインスイッチを“OFF”にして、先にマイナス側ケーブルを外し、それからプラス側ケーブルを外します。



### ⚠️ ご注意:

- バッテリー端子が腐食していたり、白い粉が付着している場合はぬるま湯で端子を清掃します。
- 端子の腐食が激しい時はケーブルを外し、金ブラシかサンドペーパーで清掃して下さい。
- 清掃後は端子に薄くグリスを塗り、バッテリーケーブルを取付けて下さい。
- 取付け時は取外しと反対の手順で取付けて下さい。

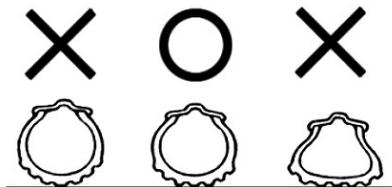
- この車輻には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーが装備されています。バッテリー液の補充は不要です。

### ⚠️ ご注意:

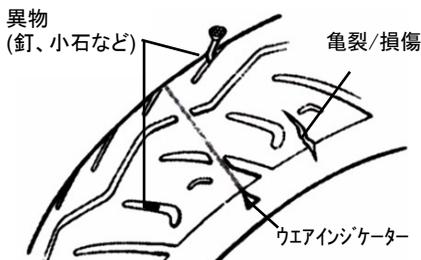
- このバッテリーは密閉タイプのバッテリーです。キャップは絶対に外さないで下さい。
- バッテリーは長期間使用しないしていると、漏電、自己放電で使用不能になります。長期間使用しない場合は車両より取外し、充電後は通風のよい冷暗所で保管する事が望ましいです。車輻に搭載したままの場合はマイナスケーブルを外すようにして下さい。
- バッテリーを交換する時は同じサイズで密閉タイプのメンテナンスフリータイプをご使用下さい。
- エンジン回転中はバッテリー端子を外さないで下さい。電気部品の故障原因となります。

## タイヤの点検

- エンジンを止めてからタイヤの点検や空気圧の補充をおこなって下さい。
- タイヤの接地面の形状が異常な時は、エアゲージでチェックのうえ、指定圧まで空気を入れて下さい。
- タイヤ空気圧はエアゲージでタイヤが冷えている状態で測定して下さい。



## 標準タイヤ空気圧のスペックをご参照下さい



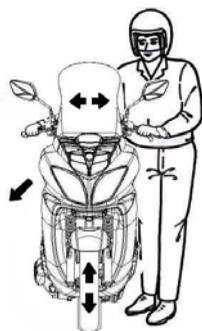
- 亀裂や損傷はタイヤ前面、横面まで確認して下さい
- タイヤ溝に釘や小石が噛んでいないか確認して下さい。
- タイヤ溝が充分にあるかどうか、ウエアインジケータをチェックして下さい。
- スリップサインが出ているタイヤは使用限界ですので、すぐに交換して下さい。

## ⚠️ ご注意:

- タイヤの異常空気圧、摩耗、亀裂はステアリング操作に影響を及ぼしたり、パンクの原因にもなります。

## ステアリングハンドル/フロントショックアブソーバーの点検

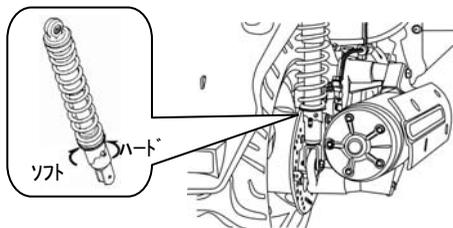
- エンジンを止めて、キーを抜いてから点検を行って下さい。
- サスペンションに損傷が無いが目視にて確認して下さい。
- ハンドルを上下に動かして異音や曲がりがないか点検して下さい。
- レンチ等でボルト、ナットの締め具合を点検して下さい。
- ハンドルを上下、左右、前後に揺らしてみ、ガタや異常な抵抗、一方に引っ張られたりしないか点検して下さい。
- ハーネスやワイヤー等によりハンドルが取れないか点検して下さい。
- 万一異常があった場合は SYM 特約店で点検修理をお受けになって下さい。



### リヤクッション調整

リヤクッションは5段階に調整することができます。

出荷時は標準の3段目に設定されています。お客様の  
お客様のお好みにより、調整リングを回す事で調整でき  
ます。



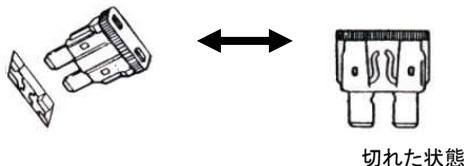
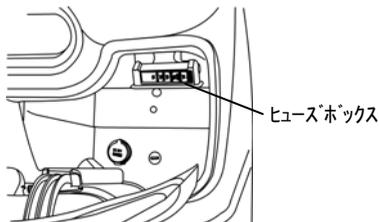
#### ⚠️ ご注意:

- 左に回すと硬くなり、右に回すと軟らかくなります。
- 車両の安定性を確保するために、調整する時は左右同じ位置に合わせて下さい

### ヒューズの点検と交換

メインスイッチを"OFF"にしてからヒューズを確認して下さい。ヒューズが切れている場合は同じアンペア数の新しいヒューズに取替えて下さい。指定アンペア数以上のヒューズや銅線、鉄線を代わりに使用する事は配線の過熱や焼損の原因になりますので、絶対にしないで下さい。電気回路システムを破損する恐れがあります。

- トランクボックスを外すと、テールライトの近くにヒューズボックスがあります。
- ヒューズボックスカバーを開けて、ヒューズを引き抜いて下さい。そしてヒューズが切れていないか確認して下さい。
- ヒューズを交換する時はコネクタにしっかりと差し込んで下さい。接触が緩いと、接触不良や損傷を与える原因になります。
- ライト球のような電気部品を交換する時は規格に合った部品を使用して下さい。交換された部品が規格に合っていないと、ヒューズ切れやバッテリーあがりを起こす恐れがあります。
- 車輛を洗車する時は、ヒューズボックスに水が掛からないように注意して下さい。
- ヒューズを替えてもすぐに切れてしまったり、原因が不明で切れてしまう場合はお買い求めのSYM 特約店に車輛をお持ちいただき、点検してもらって下さい。



### 方向指示器とホーンの点検

- メインスイッチを"ON"位置にして下さい。
- 方向指示器のスイッチを作用させて前後左右のライトの点滅を確認して下さい。
- 方向指示器のレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。
- ホーンスイッチを押してホーンが鳴るか確認して下さい

#### ⚠️ ご注意:

- 方向指示器ライト球は規格のバルブを使用して下さい。もし異なった規格のバルブを使用すると通常の方向指示器の作動に支障が生じる恐れがあります。
- 後続車に注意を促す為に、方向転換やレーン変更の前には必ず方向指示器を点けて下さい。
- 方向指示器の使用後はただちに解除して下さい。点灯させたままですと、他の車輛に迷惑を与えますのでご注意下さい。

### フロント及びリヤライトの点検

- エンジンを始動してヘッドライトとテールライトが点灯しているか確認して下さい。
- ヘッドライトの明るさと方向を壁などに当てて確認して下さい。
- ライトレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。

### ブレーキライトの点検

- メインスイッチを“ON”位置にして前後輪のブレーキレバーを握って、ブレーキライトの点灯を確認して下さい。
- ブレーキライトレンズに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい

### ⚠️ ご注意:

- 必ず規定規格のバルブを使用して下さい。もし、異なった規格のバルブを使用すると、電気システムに不具合が生じたり、バルブ焼けやバッテリー放電を起こす恐れがあります。
- 過放電やショートを避けるために、電気回路の改造や、追加をしないで下さい。火災や車輛焼失につながるおそれがあります。

### ガソリン漏れの点検

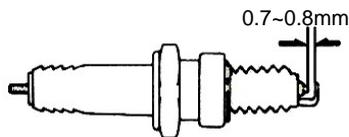
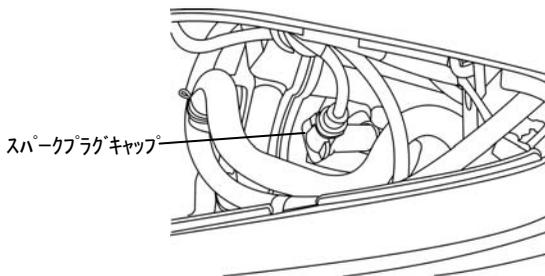
- ガソリントank、給油口キャップ、ガソリンホース、インジェクターの漏れを点検して下さい。

### 車体各部の給脂状態の点検

- 車体の各ピボット部分のグリスが充分か、確認して下さい。  
(メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーなどのピボット部等)

### スパークプラグの点検

- プラグキャップを外して、プラグを取外します。(車載ツールキットのプラグレンチを使って外して下さい。)
- 電極の汚れ、カーボンの付着による汚れが無いか確認して下さい。
- 電極のカーボン汚れは金ブラシで磨き、ガソリンでスパークプラグを洗浄して、最後に布で拭取ってよく乾かして下さい。
- 電極すきまを点検してギャップを0.8 mm に調整して下さい (測定はギャップツールを使用して下さい)
- スパークプラグは手で締めた後にレンチでさらに 1/2~3/4 回転締付けて下さい。



### ⚠️ 警告!!:

- 走行後のエンジンは大変熱くなっています。ヤケドをしないように十分に注意して下さい。  
※メーカー推奨のエンジンスペックに適合したスパークプラグを使用して下さい。(諸元表参照)

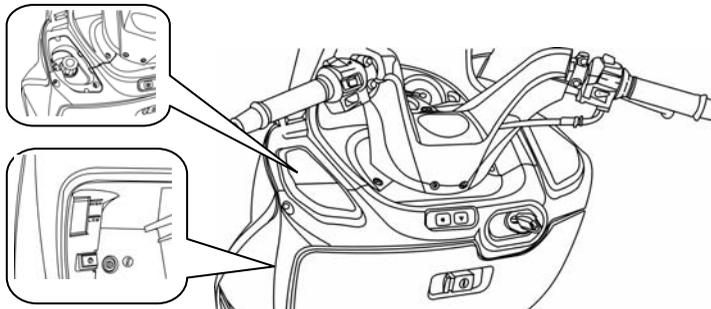
## 冷却システムの点検

(冷却水点検)

1. 安定した場所にメインスタンドを使用して止めて下さい。
2. 点検窓からリザーブタンクを点検し、クーラントレベルが上限と下限の間にあるかどうか点検して下さい。
3. クーラントが下限レベルに近い時はクーラントを上限まで補充して下さい。

(冷却水の漏れ点検)

- ラジエーターとパイプの漏れを点検して下さい。
- 車両から冷却水が漏れていないか点検して下さい。



## 冷却水の補充

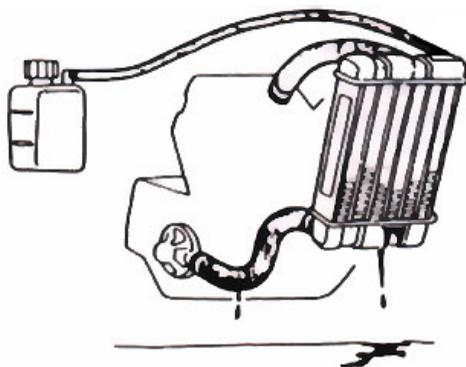
ラジエーターキャップはいつもしっかり締めて下さい。

1. 水平な場所にメインスタンドで車両を止めて下さい
2. ラジエーターキャップカバーを開けて下さい。
3. リザーブタンクキャップを開けて上限まで冷却水を補充して下さい

- もし、極端に減る場合は異常があるかもしれないので、SYM 特約店で点検して下さい。
- ラジエーター内部の錆を防ぐために適正濃度で冷却水を定期的に交換して下さい。

クーラント濃度: 50%

ラジエーター容量: 1,400 cc.



**⚠️ ご注意:**

- クーラントに混合する水は軟水を使用して下さい。
- 低品質のクーラントを使用するとラジエーター寿命が短くなりますので特にご注意下さい。
- 冷却水は1年に一度定期的に交換して下さい。

**⚠️ ご注意:**

車両が外気温の低い地域(0℃以下)で使用される場合、不凍液の濃度は温度に応じて調整する必要があります。  
不適切な濃度で使用した場合、凍結により冷却システムを破損させる場合がありますのでご注意下さい。

**寒冷地での不凍液濃度参照表**

凍結温度による適正な不凍液の濃度は以下の通りです:

不凍液濃度	凍結温度	備考
20%	-8	出荷時の車両は濃度 50% になっております。
30%	-15	
40%	-24	
50%	-36	

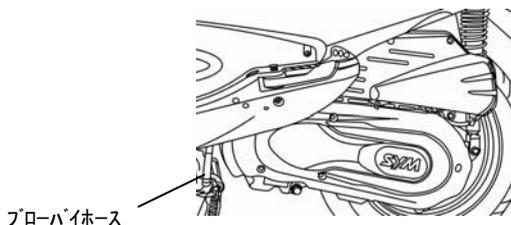
低品質のクーラントは冷却システムのトラブルの原因になります  
また、寒冷地での使用ではラジエーター液の交換回数は増やして下さい。

**クランクケースブローバイシステム**

ホースのプラグを抜いてホース内の堆積物を排出して下さい。

**⚠️ ご注意:**

- 雨天時に乗る事が多い方や全開走行の多い方はこまめにメンテナンスして下さい。ホースの透明な部分に堆積物が見えたら排出して下さい。



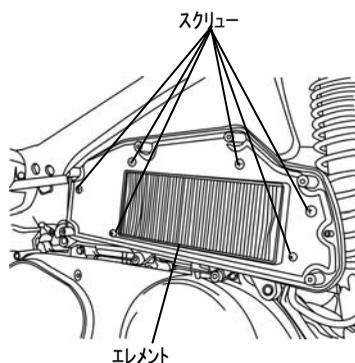
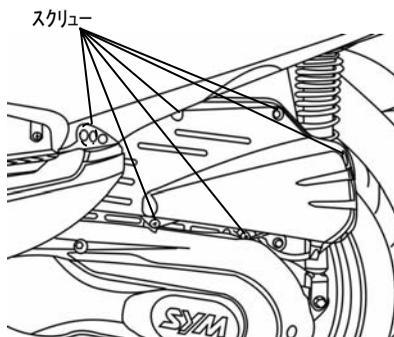
## エアクリーナーの点検

### 《取外し手順》

1. エアクリーナーカバーから取付スクリューを外して下さい。
2. カバーを取外し、エレメントを取り出して下さい。
3. エレメントを清掃して下さい (メンテナンススケジュール参照)

### 《取付け手順》

- 取外しの逆手順で取付けをして下さい。



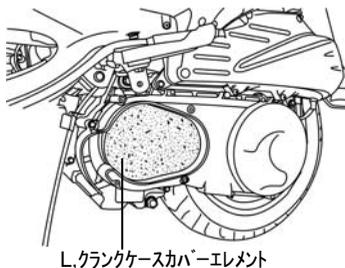
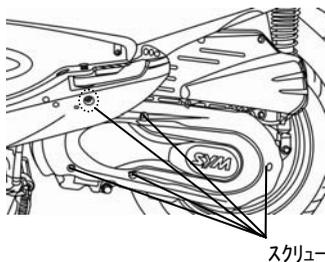
## 左クランクケースエアクリーナーの点検

### 《取外し手順》

1. 左サイドカバーと左クランクケースカバーマウントスクリューを外す
2. 左クランクケースカバーを外してエレメントを取り外す。
3. エレメントを清掃して下さい。(メンテナンススケジュール参照)

### 《取付手順》

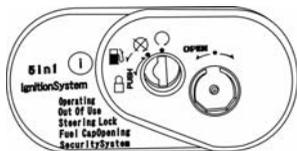
- 分解時の逆の手順で取付けて下さい。



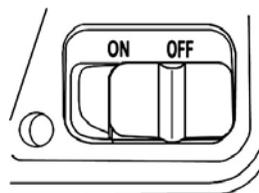
## ⚠️ ご注意:

- エアクリーナーが汚れていると出力減少や燃費の悪化を招きます。
- 空気の汚れた道を走行する事が多い場合、通常よりもエアクリーナーを頻繁に清掃または交換して下さい。
- エアクリーナーが正しく装着されていないとゴミやほこりがシリンダー内に吸入され、シリンダーの早期磨耗や出力減少を起こし、エンジン耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けて下さい。
- 車輛を洗車する時はエアクリーナーに水を入れないで下さい。エンジンの始動が出来なくなったり、故障の原因になる恐れがあります。

## エンジンが始動しないとき



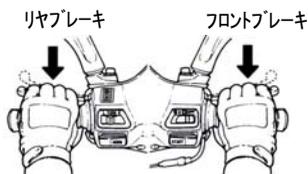
(1). メインスイッチは“ON”位置にありますか？



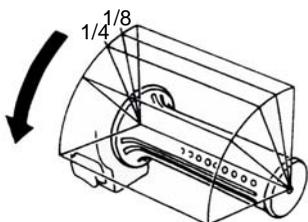
(2). エンジンコントロールスイッチは“OFF” or “”の位置にありますか？



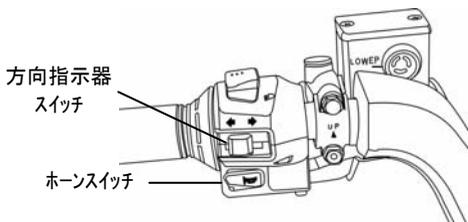
(3). ガソリン残量は充分ですか？



(4). セルボタンを押す時に前または後ブレーキをかけていますか？



(5). セルボタンを押しながら、スロットルを回し過ぎていませんか？



(6). メインスイッチを“ON”位置にしてホーンスイッチを押して下さい。ホーンが鳴らない場合はヒューズが切れているかもしれません。

【上記に該当するところが無く、エンジンが始動しない場合はお買い求めのSYM 特約店にご相談下さい】

## 13. ガソリンについて

- このスクーターはオクタン価 90 以上の無鉛ガソリンで使用されるように設計されています。
- 高地(気圧が低い所)でこのスクーターを使用する場合は、エンジン性能を最大限に発揮するために電子制御燃料噴射システム内で気圧を検出して使用状況に応じた制御をしてエンジンをコントロールしています。

## 14. トランスミッションオイル

- 推奨オイル: SYM 純正 HYPOID GEAR OIL (SAE 85W-140)  
外気温度が 0°C 以下になる地域では SAE85-90 のご使用をお勧めいたします。

## 15. 運転時のご注意

1. メインスタンドを上げてからシートに座って下さい。  
メインスタンドを上げる時は車両を前に押し出して下さい。

- ⚠️ ご注意:**
- 始動時にエンジン回転を上げるために無理にスロットルを開けないで下さい。不意に車両が進み出すと危険です。

2. 車両の左側から乗車して、車輛を倒さないように足をしっかり地面につけて、正しくシートに座って下さい。

- ⚠️ ご注意:**
- 始動時はブレーキをしっかりとかけて下さい。

3. スロットルバルブをゆっくり回すと車両は動き始めます。

- ⚠️ ご注意:**
- 急激なスロットルバルブの操作は車輛が突然発進し、大変危険です。
  - 走行前にサイドスタンドがしっかり戻っているか確認して下さい。

### 【急ブレーキはかけないで下さい。転倒を引き起こします】

- 急ブレーキと急旋回はスリップや転倒を引き起こします。
- 雨の日のようなスリップしやすい路面での急発進や急ブレーキは、スリップや横滑りを起こし転倒の原因になります。

### 【雨の日はとくに注意して走行して下さい】

- 雨の日や濡れた路面でのブレーキ制動距離は乾燥した路面と比べて長くなります。スローダウンするか、早めのブレーキ操作をして下さい。
- 下り坂ではエンジンブレーキを併用して安全運転を心がけて下さい

項目	メンテナンス キロメートル	300km	1,000km毎	3,000km毎	6,000km毎	12,000km毎	
	点検項目	メンテナンス期間	新車時	1ヵ月毎	3ヵ月毎	6ヵ月毎	
1	エアクリナーエレメント(備考)		l		C	R	
2	オイルフィルター(スクリーン)		C			C	
3	エンジンオイル(備考)		R	l	以降 3,000km 毎に交換		
4	タイヤ空気圧		l	l			
5	バッテリー		l	l			
6	スパークプラグ		l		l		R
7	スロットルボディ(EFI)		l			l	
8	ステアアリング、ハンドル		l		l		
9	トランスミッションオイル漏れ		l	l			
10	クランクケースオイル漏れ		l	l			
11	トランスミッションオイル		R	以降 5,000km (5ヵ月毎) 毎に交換			
12	ドライブベルト/ウエイローラー					l	R
13	燃料漏れ		l		l		
14	スロットル操作、ケーブル		l	l			
15	エンジンボルト、ナット		l		l		
16	シリンダーヘッド、シリンダー					l	
17	排気システム/カーボン清掃					l	
18	カムチェーン/点火時期		l		l		
19	バルブクリアランス		l			l	
20	ショックアブソーバー		l			l	
21	フロント/リヤサスペンション		l			l	
22	メイン/サイドスタンド		l			l/L	
23	クランクケースプロバイシステム(PCV)		l		l		
24	冷却水		l	l			R
25	冷却装置		l	l			
26	クラッチウエイト					l	
27	ブレーキシステム/ブレーキパッド		l	l			
28	車体各部ボルト/ナット		l	l			

☆上記メンテナンススケジュールは1000km 毎を参照ベースとしていますが、どちらか早い時期でメンテナンスを実施して下さい。

※車輛のコンディションをベストな状態に保つためにもSYM 特約店に車輛をお持ちになり、定期的な点検と調整をお受け下さい。

記号: l ~ 点検、清掃、調整 R ~ 交換

C ~ 清掃 (必要に応じて交換) L ~ 給油

- 備考: 1. ほこり道、環境汚染のひどい地区での使用車両はエアクリナーの清掃交換はより頻繁に行って下さい  
2. 総走行距離が多い車両はメンテナンスをより頻繁に行って下さい。  
3. 走行距離が標準より少ない場合、高負荷運転(高速道路など)が多い場合、寒冷時の運転が多い場合は1000km 毎にオイル交換を行って下さい。

項目	モデル スペック	RV 250i
		LM25W5-6
全長 / 全幅 / 全高		2,165 mm / 870 mm / 1,395 mm
重量		190 kg
積載重量		340 Kg
エンジン方式		4ストローク 4バルブセラミックコートシリンダー
燃料		無鉛ガソリン(オクタン価 90 以上)
冷却方式		水冷
総排気量		249.4 cc
圧縮比		10.5:1
最大出力		15.5kW / 8,000 rpm
最大トルク		22.5N-m / 5,500 rpm
始動方式		セル
フロントサスペンション		テレスコピック
リヤサスペンション		ユニットスイング
クラッチ		遠心クラッチ方式
変速機構		CVT
フロントタイヤ		110 / 90-13 56P
リヤタイヤ		130 / 70-13 57P
フロントリム		MT 13x2.75
リヤリム		MT 13x3.5
ホイール		アルミニウム
タイヤ空気圧		フロント: 標準 1.5kg / cm <sup>2</sup> , リヤ: 標準 2.25 kg / cm <sup>2</sup> 1人乗車 ,2.5 kg / cm <sup>2</sup> 2人乗車
フロントブレーキ		ディスク (Ø 240 mm)
リヤブレーキ		ディスク (Ø 220mm)
ヘッドライトバルブ(high, low)		12V 55W / 55W( H11)
ブレーキライト(tail light)		LED
ライセンスライト		12V 5W
方向指示器ライト		12V 21Wx4
エンジンオイル容量		1.4 L (1.2 L 交換時)
トランスミッションオイル容量		180 cc. (170 cc. 交換時)
燃料タンク容量		12 L
ヒューズ		20Ax3, 15Ax2
スパークプラグ		NGK CR 8E
バッテリー容量		12V 10Ah(YTX12-BS)
エアクリーナー		ろ紙タイプ
燃料タンクキャップ		Open lock type
リヤグラブバー		荷物は積めません



## 保証約款

### 保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

### 保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

### 保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

### 保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

### 保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

### 使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

## **保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）**

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題  
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状  
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

## **負担しない費用**

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品  
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

## **その他**

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。